

PAWEES の活動の現状と今後の戦略

Present Status and Future Strategy of PAWEES

佐藤 洋平*

Yohei SATO*

国際水田・水環境工学会 (PAWEES) は、国際誌 Paddy and Water Environment (PWE) の発刊について検討する会合 (2002 年 6 月に韓国ソウル大学で開催) において、国際誌の発刊母体として提案され、2003 年 1 月 1 日に設立された。ここに至るまでの経緯の詳細については、学会誌に折々に掲載 (たとえば、中道宏: 斯界のアイデンティティを問う (水土の知 75 巻 7 号) など) されているのでそれらを参照頂くとして、本小論では設立以降の活動について概観し、今後のあり方についての議論のたたき台となるべく私見を述べる。

1. PAWEES の活動

PAWEES が母体となって発刊する国際誌 PWE は、第 3 回世界水フォーラムの開催に合わせて 2003 年 3 月に創刊号が発刊された。PWE 刊行のための機能を担う組織が、別途、編集主幹

(Editor-in-Chief) を筆頭とする編集委員会 (Editorial Panel) として組織され、編集責任はそこに委ねられている。昨年 12 月には関係者一同の長年の願望であった IF の付くジャーナルとして SCIE (ISI データベース) に収録された (これについては、他の報告者に譲る)。国際誌の刊行以外で PAWEES が担う主要な機能に国際研究集会の開催と顕彰事業がある。国際研究集会は、毎年 1 回、コアメンバーである韓国農業工学会 (KSAE)、台湾農業工学会 (TAES)、それに日本の農業農村工学会 (JSIDRE) が持ち回りで主催者となり、主催国で開催される。これと併せて、顕彰事業の一環として PAWEES 国際賞、論文賞 (副賞として沢田賞、佐藤賞、丸山賞を授与)、レビュアー賞の授与式も開催される。また、国際研究集会と併せて、水田農業地域における農業工学の技術者教育に関する国際会議 (International Conference on Educational Accreditation System and APEC Engineers Project for Agricultural Engineering in Paddy Farming Regions) が連携して開催される。これまでの開催年および開催地を表にまとめて掲載してあるが、2009 年度には、コアメンバー国以外の国での初めて開催として、インドネシア・ボゴール大学で上記の国際研究集会などが開催された (PPT 資料参照)。

PWE の刊行も PAWEES の設立も、共に、水田農業を対象に発展した農業工学に係わる科学・技術における最新の研究成果や最新技術 (state of the arts) を国際的に流通させることによって、水田・水環境工学の存在を国際的に確立させるとともに、さらなる科学・技術の発展に寄与することを意図としている。水田・水環境工学の国際的存在の確立については、国際灌漑排水委員会 (ICID) や国際農業工学会 (CIGR) との積極的な連携、さらには、暫く休眠状態にあった PAWEES のウェブサイト (<http://pawees.net/>) の一新 (昨年 12 月) などが功を奏し、今日では、当初の意図は相当程度に達成されているものと思慮される (しかし、ウェブサイトへのアクセスはまだ

* (独) 農業環境技術研究所 (National Institute for Agro-Environmental Sciences)

キーワード: PAWEES, 水田・水環境工学

まだ少ない)。

PAWEES の使命、目的、活動は、PAWEES のホームページにも掲載されているので既に周知のことと思うが、自然、社会、人間との調和を図ることを重視しつつ、水田・水環境分野における科学・技術の発展を図り、もって、農業体系を改善し合理化し、他方、環境を保全することによって水田農業の持続的発展に寄与することを使命としている。この使命を達成するために以下の6つの目標を定めている：水田・水環境工学における科学・技術の発展を促す、水田農業生態系およびそのサービスに関する知識を探求する、環境バランスの確保と再構築のための技術およびその適用性を発展させる、水田・水環境工学の先端知識を共有するために研究や技術の情報の交流を促進する、水田・水環境問題を解決するために協働する、水田・水環境工学および関連科学の発展に寄与するその他の活動に取り組む。さらに、この目的を遂行するために、国際研究集会などの主催あるいは共催、国際誌 PWE の刊行、ウェブサイトの開設などに取り組むなど、当面において取り組むべきものとして掲げられている。これらの活動項目については着実に遂行されている(前掲 PPT 資料参照)。

2. 今後の戦略

とはいえ、未だ十分とは言えない取り組みもある。先に述べたように PAWEES は韓国、台湾、日本の三カ国の発起により設立されたが、その後これら以外の国の学会の参画を見ていない。もともと PAWEES は PWE 発刊の財政的支援を目的としていることもあって、モンスーン・アジア地域の国・地域においてその財政的支援が可能な国を見いだすことが難しいという事情がそこにはある。

近年、科学技術外交の戦略的推進の必要性が謳われる中で、先には総合科学技術会議がアジア地域を重点的な場として科学技術外交を戦略的に進めるとする報告書を取りまとめた。そこでは、海外の優れた研究資源を取り込むことで日本の研究開発システムを強化することや、科学・技術の成果を日本の国益のために海外で活用すること、東アジア共同体構想について科学・技術分野が先駆的に取り組むことを基本方針に、5つの課題について具体的な取り組み方策を示している。環境問題、地球温暖化防止に向けた緩和策や適応策、生物多様性の保全、資源・エネルギーの確保など、アジア地域が共通して抱える環境・エネルギー分野の課題の解決は具体のテーマとして取り上げているが、その他には、水循環システムの構築と実証プロジェクト、洪水防止技術の移転などを挙げている。また、基礎研究についてはアジア諸国との間での研究交流・人材育成を促進することも謳っている。

科学技術外交の戦略的推進という大きな潮流の中に PAWEES を位置づけるとき、関係各国・地域の学会が、これまで以上に密接な繋がりのもとに、お互いに協働して水田・水環境工学分野における新たな価値を生み出していく取り組みを強化することが望まれる。この実現性を支える方策を考えることが喫緊の課題となるが、PWE の出版助成のために各種基金による支援を得るための努力、共同研究実施のための研究資金獲得のための努力、参加国の増加によるネットワーク拡大のための努力などが直ちに取り組むべき活動として挙げられる。なお、ネットワークの拡大のためには、昨年インドネシアで開催したように、三カ国以外での国際研究集会の開催も一考に値する。